



校長 今橋 朗

キリストの来臨 — キリシタン文書の黙想より —



2008年11月25日
第129号

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-14-16
日本聖書神学校

電話	03(3951)1101~2
FAX	03(3951)3044
発行人	今橋 朗
印刷所	(株)栄光

キリシタン文書の一つに『スピリツアル修行』という信仰指導書がある。イエズス会編で長崎において一六〇七年（慶長一二年）に刊行された。迫害禁教の嵐が徐々に強まる中、江戸幕府が設立された直後である。ヨーロッパではアルミニウム論

争が始まり、欽定版英語聖書が完成間近か、パウロ・ゲルハルトが生まれた年でもある。

この文書は、年間の毎主日と教会暦上の祝祭日をはじめ、週ごと日ごとのメデイテーションを信徒の霊操のために提供する部厚いマニュアルであり、未だ定訳のないポルトガル語やラテン語の用語が混在している。何よりも教会にとって危機的な状況の中で、この種の文書が次々に発行されていたことに驚かされる。

この書物の中に「アツベントの時分のメヂタサン（待降節の観想）」という部分があつて、この聖節の毎日のメデイテーションが懇切に記されている。まず、アツベント（アド

クリスマス礼拝のご案内

と き：2008年12月12日（金） 18：30～
 ところ：日本聖書神学校 礼拝堂
 説教：「泊まる場所がなかった」
 柴田もゆる 先生
 （日本基督教団 廿日市教会牧師・西中国教区総会議長）

ヴェント）とは何か。「御主ゼズ・キリシトご来迎なさる道、四様あり。すなわち、待降節において考へるべきキリスト来臨には四つのポイント（視点）がある、と説き始める。

第一は、人間の救いのために受肉して降誕されたこと。「これ即ち千六百六年以前のことなり」。

第二、世の終りに人間の糾明審判のために来臨されること。終末の再臨（パルシューシア）を待ち望む姿勢。

第三は、良き業に励む人々の所に、目には見えない御姿で毎日、ガラサ（恵み）をもつて来ていてくださること。

第四に、同様に目には見えないけれど、「（聖餐の）サカラメント」

を拝領する人々のアニマ（魂）に來たり給うこと。

しかもこの四つの視点を観想するに当たりそれぞれを待降節の四週に割当て、第一週には第二の視点（再臨）を主題とし、以下第二週には第三、第三週には第四、そして第四週には第一の視点を主題とするよう、順序までも指示する緻密さである。

このように、待降節を単に漠然とクリスマス準備期間とするのではなく、到来し現臨するキリストを「受肉と降誕」、「終末に対する痛悔と希望」、「日常性における愛の倫理」、「聖礼典における主のリアルプレゼンス（現臨）」という重要な神学的視点で把握することを求めているのは注目しに値するのであろう。

「頃しも冬の最中なれば、雪降り積もりて道定かならず、峯の嵐も烈しく、谷の水音冷やかに、寒気も身に沁む折節なれば、歩行も叶い難く……ビルゼン（処女）サンタ マリヤ、ナタル（降誕）の前日の暮方にベツレンに着き給い、路次の御疲れ深く在すに……サン ジョゼフ御宿を借り得給はざるによつて、往來の人のために村の外に建て置きたる茅屋に立ち寄り、そこに「一宿なされしことを思案せよ。……されば汝が心中にも御為に御座の無きことを恥ぢよ。故を如何にというに、数多くの罪障充滿しければなり」。

（『スピリツアル修行』より抜粋）

— 神学校教育の理念 —

日本聖書神学校は福音主義キリスト教の立場に立ち、主の教会の委託を受けて、聖書に基づき、深い信仰と、誠実かつ熱心な神学研鑽、歴史的現実への洞察と他者に共感できる感性を兼ね備えた、福音宣教への召命に応えようとする伝道者を養成することを目的としています。

(2008年理事会にて)





《イトスギ》
拡大図

クリスマス季節を迎えまし

た。日本聖書神学校の構内もデパートなどの派手なライトアップとは全く異なりますが、御子のご降誕を祝うクリスマスツリーやクランツの飾り付けがなされています。これらの陰に隠れがちですが、構内のあちらこちらには聖書に登場する植物が沢山植えられています。そこで、聖書植物についてご案内します。

まず正面ゲートの前庭には縦の木を囲んでベンチが三台置かれています。日中は近所の方々の休憩場所になっています。縦の木はクリスマスツリーとして有名ですが、もちろんパレスチナには生息

《ヒソブ》
拡大図



していません。今は8mの高さですが、近い将来には一二〜三mまで成長します。神学校らしく落ち着きのあるイルミネーションで飾りつけをしました。その下にはパピルスが四つの大きな器に入っています。モーセがパピルス製の籠に入れられてナイル河畔の茂みに置かれたことが思い出されます。

聖書植物ガーデン

構内には「聖書植物」がいっぱい
一度ご覧になってみませんか？

総務部長 高橋克樹

ベンチの側にはイエスの十字架刑死以来、滴り落ちた血でパレスチナでは赤色に変わったという伝説のあるアネモネがあります。その

ほか前庭にはエニシダや糸杉(図)などに加え、仮庵の祭りには欠かせないミルトス(図 日本名・銀梅花)もあります。

ゲートを入ると、左手にアーモンドがあります。エレミヤの召命



《ヒソブ》

の記事で主に問われた彼が「アーモンド(シャーケード)の枝が見えます」と答えています。パレスチナでも他の花に先駆けて一月に花を咲かすため、象徴的に「目覚め」を意味します。日本でも寒い二月中には咲き始めます。その先にはクリスマスツリーなどの飾りに使われるヒメリンゴやセイウヒイラギがあります。校舎の入り口にあるクリスマス・ローズと合わせてクリスマススの植物の代表的なものです。

正面ゲートの横並びに礼拝堂は喜んで小さなゲートがあります。そこから入ると礼拝堂の横にキョウチクトウ(夾竹桃)があります。旧約外典のシラ書に出てきますが、これは聖ヨセフを象徴する花です。一人の少女が熱病から回復するようにと聖ヨセフに祈っていたら治ったというスペインの故事によるものです。

図書館棟の一階の小ホール・カリスに面した中庭にはマンドナ・リリー(聖母のゆり)をはじめ、イスラエルを代表する果実のザクロ、ギョリュウウ、オリブ、イヌサフラン、月桂樹などがあります。

す。ここにはベンチがあつて休憩できますが、ここでの一番のお目当てはレバノン杉です。レバノン杉(図)はソロモンの神殿建設にも使われた建築材で、船や棺、家具などに用いられました。植えられたばかりなので、まだ小さな木ですが、近いうちに一〇m〜二〇mになるでしょう。

校舎南側には通路があつて、そこにはキダチアロエ、アロエベラ、アツプルミント、にんにく、ウイキョウ(フェネル)、パイナツプルセージ、ペパーミント、ガーデンシクラメン、綿(わた)などに加えてヒソブ(図 ヤナギハツカ)が植えられています。主イエスが十字架刑死された際に酸いぶどう酒を含ませた海綿をヒソブにくくりつけて口元にもつていったといひます(ヨハネ福音書一九章二八〜三〇節)。聖書のヒソブ

は今のハーブのヒソブとは違ひます。今日一般にヒソブと呼んでいゝるハーブはヤナギハツカです。ただ、聖書のヒソブはハナハツカに

《ミルトス》



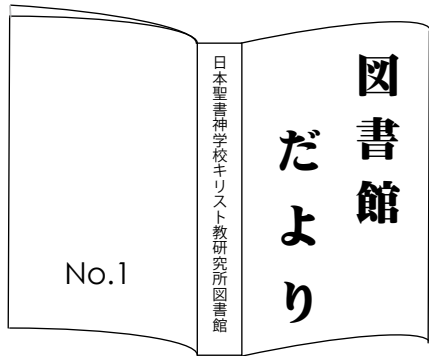
近いハーブではないかという説もありません。夏にイスラエルを旅行すると白い実のはじけた綿畑を見ることが出来ます。イスラエルの主要な農産物ですが、聖書ではエステル記の冒頭に一回だけしか登場しません。

学生寮の横にはイチジクがあります。古くから薬に使われ、聖書の記事がきっかけで抗がん剤も開発されました。聖書ではアダムとエバがエデンの園の善悪の木の実を取って食べたとき、裸であることを知り、イチジクの葉をつづりあわせて腰を覆うものとしたという記事が有名ですが、ヒゼキア王が死の病にかかったとき、干したイチジクを患部にあてて治ったという記述もあります。

そのほかにも構内には聖書に登場する植物がたくさんあります。それらを見て回ることで聖書の世界への理解が広がります。

《イラスト》中川知子

《レバノン杉》 拡大図



図書館長 石川榮一

《図書館を使ってください》

図書館がオープンして七ヶ月が過ぎました。図書館は新しくなったのですが、利用される方、とくに学生の皆さんの利用度が今ひとつのようです。これまでのところ、大体、昼間の来館者は一日平均三名、四名、午後五・〇〇から夜間にかけては六・七名といったところですが（多い日は一〇名をこえ、時には一五・六名といった日もありますが）。利用される大半の方は、卒業生の方や外来者で、学生の比率は三割程度でしょうか。もう少し本校の方々、とくに正科生の方々の利用を期待しています。わたし自身がアメリカ留学していた間は、ほとんど毎日、図書館で過ごしていました。そうしなければ

ば期限までに卒業できなかったらですが、今となってはそれが大きな知的財産になりましたし、また楽しい思い出になりました。クラスメートや、図書館長・司書ともいろいろな話をして、授業以外のよき交流の場を与えられました。

《図書館もサーヴィスに努めます》

もちろん、図書館も皆さんによりよく使っていただくために、いろいろとサーヴィスしていきます。「今年度の教科書・参考書」及び「新しく出版された本」のコーナーを入れてすぐの右書架に設けました。いずれも閲覧のみですが、中でも新刊書コーナーは楽しくお役に立てると思います。その裏側にある定期刊行物のコーナーもご利用ください。アメリカの神学校では、かならずペリオディカル（今日の情報誌）の記事を記載することが、神学の多くの分野のレポートで求められています。購入してほしい本がありましたら、皆さんからどうか遠慮なく、司書や図書館員にお申し出ください。そのための規定も現在検討中ですが、特殊な資料や、逆に神学校の図書を超えてくるような本以外ではできるだけ、ご要望にこたえていきたいと思えます。

《遠隔地に仕える 卒業生を覚えて》

遠隔地の教会に仕える卒業生の方から、その環境上、「最近の神学情報に乏しくなり、それだけ、知的欲求も増えてくる」との声を多く耳にします。ある方は神学書を手にとって見るために「遠く、車で三時間もかけて数少ないキリスト教書店まで出向かねばならない」と訴えられ、またある方は「神学校の先生方に地方に来ていただいて、今日の新しい宣教の視点を与えられた」と言われていました。さらには「神学校でサバティカル（研究休暇）の体制づくり」をして欲しいとの意見も現在、あります。

こうした要望に神学校の図書館も徐々に応えていくべく今、さまざまな角度からその方法を検討しています。近いうち、できるところから具体化していきます。図書館がいろいろな意味で、卒業生の皆さんにもお役に立てるようなセンターになることを願っています。



全国募金達成まであと二七〇〇万円

クリスマス献金にご協力を

新しい礼拝堂と図書館がオープンして七ヶ月が経過しました。礼拝堂は神学校での週二回の礼拝のほか結婚式や葬儀式、コンサートやキリスト教関係団体の諸集會に活用されています。図書館も神学校関係者だけでなく教会関係の方が利用登録をして利用されています。現在五〇名以上の方が利用登録をされていますが、今後もキリスト教界の方々が活用できる態勢を整えていく予定です。図書館は現在午前一〇時から午後八時まで開館していますが、二〇〇九年一月からは午後一〇時まで開館時間を延長して、広くキリスト教に関わる図書・資料をもつキリスト教専門図書館となります。ちなみに利用登録料は年間二〇〇〇円です。

今回の礼拝堂・図書館建築に際して、二〇〇六年から全国募金として一億円を募ることを建築初期の段階から立案して、全国の諸教会やキリスト者の皆さまに呼びかけを行ってきました。幸いに多くの方々の篤い祈りと献金を寄せられ、二〇〇八年一月五日現在で七三一〇万円が集まりました。献金の郵便振替用紙には多くの励ましが寄せられ、そのことよって建築が後押しされてきたことを感謝いたします。

さて、現時点で募金目標に対して二七〇〇万円が不足しています。できれば二〇〇八年度までに未達成額が満たされますようお願いのうちに覚えていただければ幸いです。全国の諸教会の皆さま、またこれまでお支えくださった方に再度募金をお願いをさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

なお、学校債は今年一〇月末で九〇〇〇万円を超える応募がありました。幅広い諸教会や幼稚園、個人の方から本校を支援するための応募がありました。力強いお支えをいただき心より感謝しております。

二〇〇八年度全校修養会講演要旨 「キリスト教とユダヤ教の対話」

— A. J. ヘッシエルの思想を中心に —

講師 森泉弘次 (青山学院女子短大名誉教授)

キリスト教の神学校が今回のようなテーマを取り上げることは、あまり例がないのではないだろうか。以下、まず、ブーバー、レヴィナスを取り上げ、その後バルトのユダヤ教観、そしてヘッシエルの思想がキリスト教に問いかけるものについて、お話いたします。

M・ブーバーは、西欧に同化しようとしたユダヤ人でした。彼は幼いとき、離婚した母親に去られた悲しみから、自分の感情を封



2008年10月31日～11月1日
於：高尾の森わくわくビレッジ (八王子)

印してしまっただと思われま。彼の弟子ヘッシエルは、イスラエルの預言者意識の研究を、感情の領域にまで踏み込んだ人でした。ブーバーはそれを評価しませんでした。ブーバーは、その著書『我と汝』で知られるように、神と人間及び人間と人間との間に、我―汝の人格的、対話的關係があるべきだと考えた人でした。これは、他の人間や自然を、単なる物として扱ってはならない、という思想につながります。しかしブーバーは、深い情緒性、神秘主義は理解できませんでした。
レヴィナスは、人間の顔に注目しました。それは、顔の美醜に注目したということではなく、単純に、人間には顔がある、ということが重要であって、人間の顔には十戒の第六戒「汝、殺すなかれ」が刻まれている、と言います。レヴィナスの思想をわたしの言葉でパラフレーズするならば、次のようになります。人間の顔には、神によって創造された人間の尊厳と、それを踏みじられた悲惨、根

源的悲哀がある。それゆえに、正気の人間は相手の顔を直視しながら、その命に手をかけることはできない、と。

今日のキリスト教とユダヤ教の関係を考えるとき、カール・バルトに注目しなければなりません。バルトは、イスラエル建国(一九四八年)の翌年、いち早くラジオ放送で、「ユダヤ人問題とそのキリスト教の応答」と題する講演を行い、イスラエル建国を承認し、それに祝意を表しました。日本のキリスト者には、イスラエル建国の意義を認めながら人が多いのですが、「イスラエル建国は神の摂理である。それゆえにこそ、アラブ難民に対するこれまでのイスラエルの『眼には眼を』的な対応の罪は重い」とわたしは思います。バルトは、「いかなる形の反ユダヤ主義であつても、こ

れは、キリスト教によって形成された私たちの文化と文明の野蛮きわまる侮辱であると判断し、批判する」と語りました。さらに、「ユダヤ人の奇跡的とも言うべき存続は、非ユダヤ人に、『キリストはユダヤ人である』、『救いはユダヤ人からくる』(ヨハネ四・一二)と

いうことを想起させるためである」、また、「ユダヤ人は和解の主イエスを救い主として受け入れなかつたために、今なお『好争的』で、彼らを苦しめた反ユダヤ主義に近い頑固な抵抗を示す」とも語りました。これは歴史の皮肉です。さらにバルトは、「世界の非ユダヤ人は、とかく自分で認めたくない己が性質をユダヤ人に投影して彼らを嫌うが、ユダヤ人はあなたの鏡だ」と指摘します。歴史的に見て、ユダヤ教徒を憎み、迫害を主導してきたのはキリスト教徒だっ

たとすれば、われわれキリスト者もまた、愛敵の精神を説いたイエスを真に受け入れてきたとは言えないのではないのでしょうか。
ヘッシエルは、ユダヤ教から見たキリスト教の決定的な存在意義は、ヘブライ語聖書(旧約聖書)の世界的普及だと言います。彼は、キリスト教が、罪意識、罪からの救いということにあまりにも重きを置きすぎている、と考えています。ヘッシエルは、罪の問題をけっして軽視はしませんが、むしろ、「神の戒め「ミツヴオット」を行うこと」を重視します。私たちは神の性質を真似ることはできませんが、神の行為、例えば、エジプトで奴隷として苦しむイスラエルのために「寝ずの番をした」ことを真似ることはできます。私たちは、ヘッシエルのこうした思想に

学ぶことができます。

2009年度入学案内

今、聖書のみことばに深く聴き、人間の痛みを感じ取ろうとし、教会に仕える伝道者が求められています。そのような志をもつ方々が、夜間授業により正規の神学教育を行っている本校に集われることを願って、入学案内を記します。

- 入学試験日 《春季》二〇〇九年二月一九日(木)、二〇日(金)
- 試験内容 旧約聖書、新約聖書、英語、小論文、面接
- 受験資格 ①大学卒業またはそれと同等の学力を有すると本校
において認められた者 ②受洗後二年以上の忠実な
教員で、所属教会牧師および役員会の推薦を受け
た者
- 修業年数 四年
- 願書受付期間 《春季》二〇〇九年一月八日(木)～二月一〇日(火)

*詳細は本校教務部へお問合わせください。
電話 〇三―三九五―一一〇二